

令和3年度における学長表彰対象者について

対象者	団体	人数	所属・職名等	選定理由
向井 敏司		1	工学研究科 教授 (主配置：未来医工 学研究開発セン ター)	<p>向井敏司教授は機械工学に関する教育研究活動の中で、機械構造物の高性能化に有効な材料設計手法を医療用インプラントの材料設計に応用し、主として体内で分解する新しい金属材料の基礎研究とプロトタイプデバイスの開発研究を推進している。</p> <p>これまでに複数の医学研究者との間で分解性を有するデバイスの適用可能性について協議を重ね、各用途に応じた素材を開発している。例えば、肝胆膵外科学分野（福本巧教授）との共同研究では、外科手術に汎用されるクリップとして適用可能なマグネシウム合金を新規設計し、体内分解性を有するクリップのプロトタイプを作製した。さらに、その応用展開として、外科手術用ステープルのプロトタイプを協働開発することに成功している。放射線腫瘍学分野（佐々木良平教授）との共同研究では、粒子線治療用マーカーについて、分解性を有する亜鉛合金を新規設計し、プロトタイプを作製した。腎泌尿器科学分野（藤澤正人教授・日向信之特命准教授）との共同研究では、腎泌尿器の外科手術へ適用可能な亜鉛合金を設計し、新しいクリップを協働開発した。また、協働開発は他大学との間でも実施しており、東北大学医学研究科形成外科学分野と歯学研究科との共同研究では、骨固定に適用可能なマグネシウム合金を設計し、適用可能性を協働で検討している。以上のような、各用途に必要な機械的性質と分解性を併せ持つ材料設計とプロトタイプ試作に成功し、工学シーズの適用範囲拡大に貢献している。</p> <p>他方、医学研究科と工学研究科の間における共同研究の活性化にも貢献している。例えば、医学部及び附属病院の医師や研究者に向けて工学研究シーズを、工学域教員に向けて医療ニーズを情報発信する講演会を医学研究科の福本巧教授と協働で実施し、医工連携研究の件数増加に貢献した。また、医工融合による大学院新コースの立ち上げを福本教授とともに先導し、本学の教育活動に貢献している。</p> <p>以上の功績を認め、学長表彰に選定した。</p>
医学部附属病院 (代表者：眞庭 謙昌)	○		医学部附属病院臨床 研究推進センター 同 医学研究科及び医学 部附属病院構成員一 同	<p>医学部附属病院では、平成26年度から臨床研究中核病院を目指すことが検討され、体制構築等準備を進め、理事懇談会等の本部の会議を経て、平成28年度に大学として臨床研究中核病院を目指すことが決定した。</p> <p>臨床研究中核病院を目指す中で、平成30年4月に臨床研究法が制定されたことや臨床研究中核病院承認のための実績要件（実績要件及び人員要件等）がより厳しく変更される等により、準備を進めても承認要件に達しない状況が続いたが、臨床研究中核病院承認に向けた大学からの協力・連携や当院の数多くの対策や措置により、一つ一つ着実に承認要件をクリアしていき、令和2年3月に厚生労働省へ申請書を提出し、正式に受理された。</p> <p>その後、令和2年4月に新たに承認要件が変更されたことに伴い、厚生労働省から新要件を満たした時点で実地調査を行う旨連絡があり、先延ばしとなったが、令和2年7月末時点で新要件を満たしたため、令和2年12月に社会保障審議会医療分科会及び厚生労働省による実地調査が行われ、令和3年4月5日、第60回社会保障審議会医療分科会において審議され、医療法第4条の3第1項の規定に基づき、厚生労働大臣から4月7日に全国で14番目の臨床研究中核病院として承認された。</p> <p>臨床研究中核病院となることで、AMEDや厚生労働省から臨床研究中核病院のみに委託される事業を受託できることや企業からの治験依頼の増加が見込まれること、さらには臨床研究を行うための研究シーズが集まる可能性が高まることが予想され、臨床研究の促進となり、医薬品や医療機器が社会実装に至れば、大きな社会貢献に繋がる。</p> <p>以上の功績を認め、学長表彰に選定した。</p>
立川 貴士		1	分子フォトサイエ ンス研究センター 准教授	<p>太陽光エネルギーを有効活用する技術の開発は、人類が持続可能な社会を実現するうえで最重要課題の一つである。なかでも光触媒は、光エネルギーをクリーンなエネルギーである水素に変換できる物質であり、触媒作用の高効率化に向けた研究が精力的に行われている。</p> <p>立川貴士准教授は、この課題に対して、基礎化学分野にとどまらず、2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に極めて重要な二つの成果を得た。</p> <p>一つは、1)高効率な光エネルギー変換過程の機構解明につながる自然科学的に重要な知見を得たことであり、もう一つは、2)全く新しい高効率な光触媒の物質開発で大きな成果を挙げたことである。</p> <p>1)については、光触媒として有用な金属酸化物や次世代太陽電池材料として注目されている有機無機ペロブスカイト等を対象に、光エネルギー変換過程で中心的役割を果たす電荷の挙動を1粒子レベルで観測し、微視的構造との関連性を明らかにした。成果2)では、1粒子解析の結果から着想を得て、ナノ粒子が三次元的に配列した構造体である「メソ結晶」を新規開発し、それらを水分解用光触媒として応用した。2019年には、赤錆として知られるヘマタイトを原料にすることで、安価かつ高効率なメソ結晶光触媒電極の開発に成功している。</p> <p>これらの成果をImpact factorが12を超える著名な国際学術誌であるNature Commun. やAngew. Chem. Int. Ed.に責任著者として計3報発表し、世界の注目を大いに集めた。また、先端融合研究環開拓プロジェクトやJSTが支援する研究プロジェクトのリーダーとして、太陽光を有効利用する高効率水素製造システムの構築と実用化を目指し、国内外の研究者や関連企業との産学官連携を強力に推進した。</p> <p>以上の功績を認め、学長表彰に選定した。</p>
上東 貴志		1	計算社会科学研 究センター 教授	<p>上東貴志教授は、以下の4点において、研究・社会貢献等が特に顕著である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2021年4月に、本学をスポンサーとして上東教授が編集委員長（Editor-in-Chief）を務める国際査読雑誌『Journal of Computational Social Science』が、Web of ScienceのEmerging Sources Citation Index に収録され、本学の国際的評価に貢献した。同誌は2018年1月に、計算社会科学における世界初の国際査読雑誌として上東教授がSpringer社より創刊したもので、極めて短期間でWeb of Science収録となった。同誌はさらに、『第3期中期目標期間（4年目終了時評価）に係る業務の実績に関する評価結果』の「研究水準及び研究の成果等に関する目標」において、本学唯一の「特色のある点」（計算社会科学分野の進展）として高く評価され、本学の研究評価に大きく貢献した。 2019年11月に、経済学における国際査読雑誌『International Journal of Economic Theory』(Wiley)の編集委員長（Editor-in-Chief）に就任し、新たな投稿システムを導入した。同誌は2021年4月にインパクト・ファクターが0.227から0.630に上昇し、本学の国際的評価に貢献した。 2020年10月に、日本学術会議・会員に任命され（本学からは2名のみ）、本学の学術的評価に貢献した。 2021年7月に、世界各国の経済学会がメンバーとなっている国際学会International Economic Associationの理事（Executive Committee）に任命され、本学の国際的評価に貢献した。 <p>以上の功績を認め、学長表彰に選定した。</p>

令和3年度学長表彰（財務貢献者） 報償対象者一覧

No.	所属	職名	氏名	備考
1	大学院科学技術イノベーション研究科	教授	近藤 昭彦	
2	大学院医学研究科附属感染症センター	教授	森 康子	
3	大学院医学研究科	教授	野津 寛大	※
4	先端膜工学研究センター	教授	松山 秀人	
5	産官学連携本部	特命教授	竹内 俊文	※
6	大学院科学技術イノベーション研究科	教授	白川 利朗	※
7	先端融合研究環	教授	的場 修	
8	大学院保健学研究科	教授	古和 久朋	
9	大学院医学研究科	教授	古屋敷 智之	
10	大学院医学研究科	特命教授	錦織 千佳子	
11	大学院科学技術イノベーション研究科	特命教授	内田 和久	
12	先端バイオ工学研究センター	教授	蓮沼 誠久	
13	大学院人間発達環境学研究科	教授	青木 茂樹	
14	産官学連携本部	特命教授	長廣 剛	
15	大学院医学研究科	教授	小川 涉	
16	大学院医学研究科	助教	富樫 英	
17	大学院工学研究科	教授	丸山 達生	
18	大学院医学研究科	特命教授	高井 義美	
19	先端バイオ工学研究センター	教授	西田 敬二	
20	大学院医学研究科	教授	内匠 透	
21	大学院医学研究科	非常勤講師	飯島 一誠	
22	大学院科学技術イノベーション研究科	教授	青井 貴之	
23	大学院工学研究科	教授	寺田 努	
24	大学院工学研究科	教授	神野 伊策	
25	大学院科学技術イノベーション研究科	教授	永田 真	
26	大学院理学研究科	教授	牧野 淳一郎	
27	大学院医学研究科	教授	鈴木 聡	
28	大学院医学研究科	教授	村上 卓道	
29	大学院医学研究科	教授	的崎 尚	
30	大学院医学研究科	特命准教授	水谷 清人	
31	計算社会科学研究センター	教授	上東 貴志	
32	大学院理学研究科	教授	林 祥介	
33	大学院理学研究科	教授	島 伸和	
34	医学部附属病院	教授	佐々木 良平	
35	数理・データサイエンスセンター	教授	木村 建次郎	
36	大学院科学技術イノベーション研究科	特命教授	新谷 卓司	
37	大学院工学研究科	教授	阪上 隆英	
38	大学院医学研究科	准教授	小林 千浩	
39	大学院医学研究科附属感染症センター	教授	勝二 郁夫	
40	大学院理学研究科	准教授	身内 賢太郎	

令和3年度学長表彰（財務貢献者） 報償対象者一覧

No.	所属	職名	氏名	備考
41	医学部附属病院	准教授	山下 智也	
42	大学院理学研究科	教授	深城 英弘	
43	大学院農学研究科	教授	土佐 幸雄	
44	大学院工学研究科	教授	鈴木 洋	
45	大学院工学研究科	助教	杉本 泰	
46	大学院農学研究科	教授	杉本 幸裕	
47	大学院科学技術イノベーション研究科	特命准教授	川口 秀夫	
48	大学院医学研究科	教授	南 康博	
49	大学院理学研究科	准教授	津田 明彦	
50	大学院システム情報学研究科	准教授	中村 匡秀	
51	大学院医学研究科附属感染症センター	特命准教授	有井 潤	
52	大学院工学研究科	教授	荻野 千秋	
53	大学院工学研究科	教授	喜多 隆	
54	大学院工学研究科	准教授	田中 勉	
55	大学院工学研究科	教授	澁谷 啓	
56	大学院医学研究科	教授	児玉 裕三	
57	大学院人間発達環境学研究科	准教授	蘆田 弘樹	
58	分子フォトサイエンス研究センター	教授	小堀 康博	
59	大学院工学研究科	准教授	松井 雅樹	
60	大学院工学研究科	教授	西野 孝	
61	数理・データサイエンスセンター	教授	齋藤 政彦	
62	大学院医学研究科	特命教授	片岡 徹	
63	大学院海事科学研究科	教授	大澤 輝夫	
64	数理・データサイエンスセンター	教授	小澤 誠一	
65	バイオングナル総合研究センター	教授	菅澤 薫	

※の方は財務貢献者の代表として表彰式に出席